

かわさき区の宝物シート

宝物No.	きょうまちりょくちとかわさきうんがのいこう
8-8	京町緑地と川崎運河の遺構

京町緑地と川崎運河の遺構

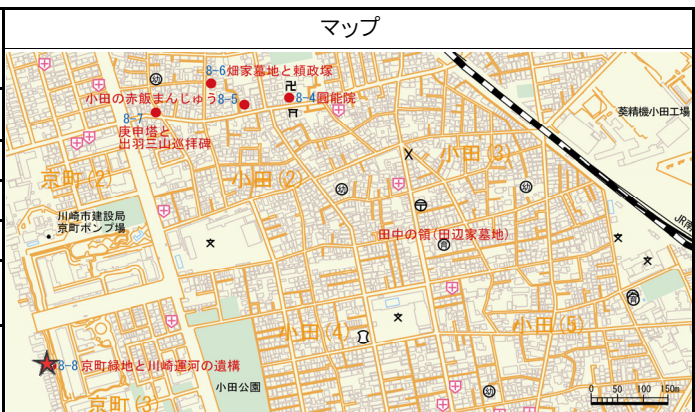


エリア	中央地区	シーズン	通年
	渡田・京町	日時	



目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区京町3丁目
問い合わせ	川崎区役所道路公園センター
TEL	044-244-3206
FAX	044-246-4909
E-mail	61dousei@city.kawasaki.jp
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「小田二丁目」下車、徒歩5分



基礎情報

■京町2～3丁目、横浜市鶴見区との境界付近に位置する京町緑地。緑が濃く、秋には中外倉庫運輸(株)の壁面を這う蔦の紅葉が美しい。ムクドリ、オナガ、セキレイ、メジロなどの鳥類も多く見られる。鶴見区の日東緑道へと繋がっている。大正11年(1922)に京浜急行電鉄によって造成された「川崎運河」の遺構(防潮壁)が残る。

由来・エピソード

■大正8年から11年(1919～1922)にかけ沿線開発の一環として京浜急行電鉄(株)が川崎運河を開削し、その土砂によって両岸を埋め立て25万坪の工業用地を造成したものである。いくつかの工場が進出したが、当時の経済不況の中で工場用地として完売の見込みが立たず、道路を整備し残りは宅地として分譲したのが現在の京町と鶴見区の浜町(現在の平安町)であった。「京浜」の1字ずつを使って命名された。

■電鉄会社による土地建物経営は関東では初めてのものであり、明治43年(1910)に「京浜遊覧案内」を発行し郊外生活を推奨するとともに、移住者には京急の乗車券の割引を行うなど通勤・通学の便宜を図った。京町・浜町の川崎住宅地は後に「八丁畷分譲地」と称され、一ノ辻、二ノ辻…、一ノ通、二ノ通り…など京の町割りを模倣した地名を用い高級住宅街のイメージが強調された。新住民は東京から来た人が多く、初期の頃は有名な歌舞伎役者や画家、大企業のホワイトカラーなど裕福な層の人々であったが、その後の工場からの排煙や周辺環境の悪化などにより、徐々に去って行ったという。

■川崎運河は、京町1丁目より鶴見区入船橋を経て旭運河に至っていた。初期のころは船舶も通航し、ボラ釣りや護岸につくカキ採り、子供達の遊び場として親しまれたというが、結局運河としては余り利用されず、昭和16年(1941)頃より日本鋼管の鉱滓によって埋め立てられ消えていった。現在、運河そのものの痕跡はとどめていないが、京町緑地には高さ1メートル、厚さ9センチのコンクリート製の防潮壁が残っている。大正6年(1917)の大暴風雨による高潮被害の経験から築造されたものである。

補足・その他

関連シート

(10-1)京急発祥の地碑(川崎大師駅)
(28-2)川崎港・運河